



東京PCB廃棄物処理事業だより (No.10)

東京PCB廃棄物処理施設の運転状況について

高濃度PCB廃棄物

	平成19年度(4月~6月)		平成19年6月末現在 累計処理台数
	受入台数	処理台数	
トランス	0台	4台	121台
コンデンサ	94台	86台	835台
安定器等	0個	0個	9,864個

- * 高濃度PCB廃棄物については処理に着手した台数を処理台数としています。
 - ** 前年度に受入をしたPCB廃棄物が残っていたため、処理台数が受入台数を上回っているところがあります。
 - *** 安定器については、換算方法を精査したため、前号で示した量と若干異なります。
- 低濃度PCB廃棄物(柱上トランス絶縁油)

	平成19年度(4月~6月)		平成19年6月末現在 累計処理量
	受入量	処理量	
柱上トランス絶縁油	231kl	218kl	1,333kl

東京PCB廃棄物処理施設の定期点検期間における改善工事について

東京PCB廃棄物処理施設は、5月25日から定期点検に入り7月末まで各種検査、改善工事を行っております。

定期点検期間中は、高圧ガスや圧力容器等の法定検査を受検するほか、安定的な操業に向け以下のような設備の改善工事を実施しています。

①安定器処理にかかわる加熱炉における無水フタル酸対策工事

安定器は、当面は充填材がポリエステル型の物を優先的に処理する方針としております。しかしポリエステル型についても、加熱炉による処理工程(真空状態で250℃で処理)において、凝縮器(加熱処理による排気を冷却し液状にさせる機器)内に無水フタル酸の結晶が付着して、配管等の詰まりが発生しました。このため、凝縮器内に噴霧ノズルを設置し、絶縁油をスプレー状に噴霧することにより無水フタル酸の結晶をスラリーとして回収することとしました。回収したスラリーは水熱酸化分解にて処理することとなります。

②高pH対策工事

高pH排水流出対策として、排水槽にpH計を追設し、高pHとなった場合はインタロック作動により排水を中和槽に戻すシステムとしました。

③水熱分解再生熱交換器の入口部取替え

昨年8月及び本年1月の腐食点検結果を踏まえ、引き続き水熱分解後の再生熱交換器(処理液再生熱交換器、給水再生熱交換器)等の腐食状況を点検しました。前回までに入口部において腐食の進行がみられた再生熱交換器については、予定どおり入口部を高温の耐食性に強い材料に交換(NCF625→NCF690)することにしました。

④水熱分解槽PCB供給配管工事

水熱分解槽にPCB液を供給する配管の詰まり防止及び解消対策のため、配管系統の急な曲がり部を減らした配管に新しく換えたほか、配管途中にフランジ(継手)及びパーシブ配管を追加する等、詰まりが生じた際に効率よく清掃できるようにしました。

⑤オイルスクラバーへのミストセパレータ設置工事

排気中のPCBを除去するために設置されているオイルスクラバーの油分が、ミストやフューム(霧)状となって下流の活性炭槽まで飛散することで、排気中のPCB濃度を測定するモニタリング装置などへ悪影響を及ぼさないようにするため、ミストセパレータを設置することにしました。



高濃度定期点検工事安全大会



UFミル解放点検



ミストセパレータ

東京都環境局森廃棄物対策部長による安全講話について

定期点検期間中の7月3日、森部長より「巨大システム（プラント）の安全管理」及び「これからの安全管理」について講話をいただきました。

当日は、東京事業所社員の他、運転委託会社で責任のある立場の者など、約60名の参加があり、定期点検後の安全・安定操業の確立を、一体となって推進する決意を新たにしました。



東京PCB廃棄物処理事業環境安全委員会について

7月18日に東京PCB廃棄物処理事業環境安全委員会（委員長：中杉修身上智大学大学院教授）を開催いたしました。

弊社からは東京PCB廃棄物処理施設の操業状況についてとヒヤリハット活動実施状況について報告をいたしました。

委員の先生方から、防災訓練についてはこれからもしっかり行うこと、トラブルの事業所間における水平展開をしている事例を紹介すること、ヒヤリハットについて労災評価のみならず環境評価の観点からも評価を行うこと、短時間で報告があがる仕組みが必要であること等の意見がありました。



東京PCB廃棄物処理施設見学状況について



東京PCB廃棄物処理施設では「情報公開ルーム」「見学者通路」を設け毎週火曜日と木曜日に施設を公開しております。

4月～6月の間には465名が来所され、昨年度に引き続き多くの方々にご見学をいただきました。

また、7月10日には宇宙飛行士・日本科学未来館 毛利衛館長がご視察されました。

施設見学についての詳細は弊社HPにてご案内をしております。

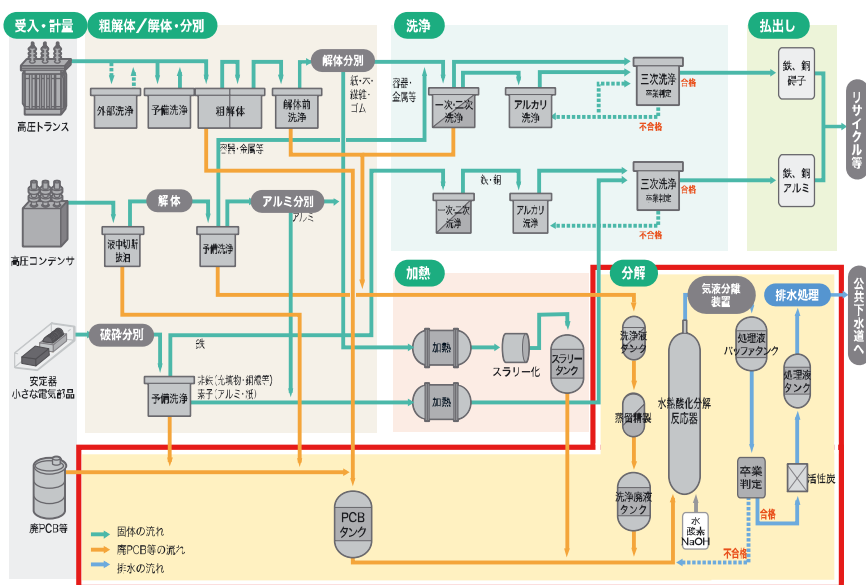
<http://www.jesconet.co.jp/facility/tokyo/facility/tour.html>

東京PCB廃棄物処理施設の紹介④＜分解処理設備-1＞

今回は分解処理設備の一部を紹介します。

前処理設備でトランス等から抜き出されたPCB油は、液処理設備へと送られ、ここで水熱酸化分解反応器により分解（無害化）されます。

水熱酸化分解反応器は、370℃、27.5Mpaという高温高压の熱水中でPCBを水酸化ナトリウムにより脱塩素化し、酸化分解により最終的に無害な水、食塩、二酸化炭素に分解する設備です。



水熱酸化分解反応器

反応器は高さ15m、直径1.2mの円筒型のものが3基あり、1日あたり約2トンのPCBを処理する能力があります。



日本環境安全事業株式会社 東京事業所
〒135-0064 江東区青海二丁目地先（中央防波堤内側埋立地内）

TEL 03-3599-6023

<http://www.jesconet.co.jp/facility/tokyo/index.html>